

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立鳥羽高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		・ これからの地域社会をささえる若者が育ち合う学校 ～子どもたちが地域の中で生き生きと活躍し、自信と誇りを持って成長する～
	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	・進路実現に向け、基礎的・総合的な学力や社会的・職業的自立に必要な規範意識と態度を身につけた鳥羽高生 ・地域の中で生き生きと活躍し、自信と誇りを持って成長する鳥羽高生 ・以下に示す「7つの力」を身につけた鳥羽高生 ①行動力 ②思考力 ③コミュニケーション能力 ④創造力 ⑤表現力 ⑥自己肯定力 ⑦自己管理能力
(2)	ありたい教職員の姿	・教育活動を通じて生徒の成長を実感し、誇りと自信を持って学校の組織力の向上を目指し、子どもに向き合い、若手と経験豊かな職員や様々な職種が対話を通じて学び合っている教職員集団。 ・授業を大切に、生徒の基礎学力の定着・向上に取り組むとともに、本校の特色を生かした地域学習や体験的活動を通して総合的な学力を育むことに前向きに取り組む教職員。 ・コンプライアンスを遵守し、地域社会の一員として豊かな社会性を身につけた、信頼される教職員。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒> 高校生活の充実(進路実現のための個々に必要な学力・部活動・仲間づくり) <保護者等> 進路希望の実現、社会で生きて行く力、安全で安心して学べる楽しい学校 <地域> 観光・防災等の地域の活性化への貢献、交流の場の提供、生徒の健全育成 <企業・大学等の進路先> 社会的・職業的自立に必要な生徒の基礎学力・基本的生活習慣の育成・定着
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<保護者等> 子どもの進路実現、安全・安心な環境 <中学校> 生徒の進路保障、中高連携の推進 <地域> 地域社会の活性化、生涯学習の場の提供、三重大学進学への地域枠活用 <企業・大学等> 基礎学力の定着・向上、基本的生活習慣の確率	<保護者等> 本校の教育方針への理解と生徒を教育し育てるための連携・協力 <中学校> 生徒の教育支援のための情報共有、中高間連携の推進 <地域> 地域学習活動の機会・素材・人材の提供、生徒の健全育成活動での連携・協力 <企業・大学等> キャリア教育や地域学習等の素材・人材・場の提供

(3)前年度の学校関係者評価など		・前後期選抜受験者数は、昨年度比で 1.4 倍となった。今後も鳥羽高校の魅力を PR してってもらいたい。また、何をきっかけに鳥羽高校を選んだかを聞き、さらに選ばれる学校づくりをしてほしい。 ・地域との交流を増やし、地域の中で生き生きと活躍してほしい。 ・系列の見直し魅力化を図る場合、観光都市「鳥羽」を学びのフィールドとしてほしい。
(4)現状と課題	教育活動	・引き続き、全教職員が生徒に寄り添い、授業規律の確保及び基礎学力の充実を目標に努める必要がある。 ・地域との交流や小学校の出前授業などを通じて、生徒一人ひとりが輝き生き生きとした姿が見られた。1 年次の「起業体験プログラム」や 2・3 年次の系列の取組は、効果がとても高かった。一方で教員がその準備・調整等に係る時間・負担が増加した。 ・令和4年度入学生より、一人一台端末の購入が始まり、今年度は教員用のパソコンも授業活用が行いやすいものに更新された。ICT の効果的な活用方法を共有し、授業改善に生かしていきたい。 ・特別指導は以前に比べて減少しているが、学習意欲の低下やコミュニケーション不足などによる生徒への支援配慮が増加した。
	学校運営等	・学校の Web ページやインスタグラム、鳥羽市の広報の学校情報ページなど、好評を得ている。さらなる情報発信の方法について、検討していきたい。 ・令和 6 年度、教員人数の減少に伴い、学校全体での仕事量の削減や分掌内で仕事の割り振りを再検討する必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・地域社会で貢献できる人材育成を目指し、体験的な教育活動を推進 ・生徒一人ひとりの進路実現を目指し、基礎・基本の定着を図る取組を推進 ・自己の生き方・在り方の認識を目指し、自他の理解や良好な人間関係形成するための人権意識を高める学習活動を推進 <具体的な教育活動> ・探究活動(産業社会と人間、総合的な探究の時間、鳥羽学) ・系列授業、自由選択科目、就業体験学習(観光・福祉) ・学びの基礎診断、基礎力養成講座、少人数教育 ・人権LHR、部活動 等
学校運営等	・総合学科ならではの授業内容を充実し、生徒の能力を成長させるため、全教職員が連携し、授業公開や授業研究などを通じて授業改善を進める。 ・教職員がまとまって子どもに向き合い、一人ひとりの成長を支援できるよう、組織の目標を共有することや組織のしくみの見直すことで、働きやすい職場づくりに取り組む。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	・総合学科の学習内容に興味・関心があり、意欲を持って学習に取り組める生徒 ・学習を通して、積極的に進路実現を目指す生徒 ・部活動またはボランティア活動等について、積極的に活動する意欲のある生徒 ・規範意識や基本的生活習慣が身についており、学校生活に積極的に取り組める生徒 ・将来、地域社会で活躍し、地域に貢献しようとする意欲のある生徒
--	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	(1)生徒の学力の客観的な把握と学力に不安のある生徒への継続的な指導を実施する。 (2)主体的・対話的で深い学び、生徒主体の授業づくりに向けての実践研究を実施する。 (3)授業等における発表や総合学科発表会等、生徒の学びの成果を発表する校内外の機会を実施する。 (4)人権教育推進計画及び人権教育カリキュラムに基づき、計画的な人権学習を実施する。 (5)各教科、系列や探究の授業等での学校図書館利活用機会の充実に取り組む。 【活動指標】 ① 基礎力勉強会及び診断テストを実施(9月・1月) ② 生徒による授業評価を年2回実施(7月・12月) ③ 地域と連携した授業公開(中学校教員・塾等対象):年2回設定・実施 ④ 校内外での公開発表会の実施:年間10回以上 ⑤ 公開人権LHRの実施 ⑥ 授業における学校図書館利用の充実:年間100時間以上 【成果指標】(授業評価結果等より) ① 「積極的に授業に参加している。」と回答した生徒の割合90%以上 ② 「この授業は、実力アップに効果がある。」と回答した生徒の割合90%以上 ③ 「命や人権を大切にする指導が適切に行われている。」と回答した生徒の割合90%以上	【活動指標】 ①基礎力勉強週間及び基礎力診断テストの実施3回(4月、9月、1月) ①基礎力向上に係る教員研修会を開催3回 ②全教員に授業評価を2回実施し、校長が結果のフィードバックを行った。 ③授業公開週間等の実施3回(11日) ④総合学科研究大会、起業体験プログラム等、公開発表会の実施10回以上 ⑤公開人権LHRを開催 ⑥227時間(1月末日現在) 【成果指標】 ①「積極的に授業に参加している。」と回答した生徒の割合87% ②「この授業は、実力アップに効果がある。」と回答した生徒の割合90% ③「命や人権を大切にする指導が適切に行われている。」と回答した生徒の割合91%	◎
生徒指導の充実	(1)挨拶の推進。頭髪や服装等、基本的な生活習慣の確保や規範意識・コミュニケーション能力向上の指導を全職員で徹底し、自尊感情を育む声かけを実施する。 【活動指標】 ① 挨拶指導の徹底 ② 制服等の着こなし指導の徹底 ③ 毎朝の登校指導、授業時間中の校内巡視の実施 【成果指標】(生徒満足度調査結果等より) ① 「基本的な学校生活習慣の定着に向けて、適切な指導が行われている。」と回答した生徒の割合85%以上 ② 「健康と安全(交通・防災・防犯など)について、適切な指導が行われている。」と回答した生徒の割合	【活動指標】 (1)毎日教員が、登下時に挨拶や声かけを積極的に行い生徒とのコミュニケーションを図った。服装やルールの確認、着こなしの指導、昼休み校内巡視や生徒への積極的な声かけを行った。 【成果指標】 ①「基本的な学校生活習慣の定着に向けて、適切な指導が行われている。」	

	85%以上	と回答した生徒の割合 95% ②「健康と安全(交通・防災・ 防犯など)について、適切 な指導が行われている。」 と回答した生徒の割合 95%	
キャリア教育の充実	(1)確かな進路実現に向けた細やかな進路指導とコミュニケーション力の向上への取組を実施する。 (2)「産業社会と人間」等の授業で地域産業の発展に注目し、それを通して自己の在り方生き方について考え、主体的に豊かな社会を築く意欲や態度の育成に取り組む。 (3)デュアルシステム及びインターンシップを円滑に実施する。 【活動指標】 ①全教員による実践的な面接指導の実施 ②外部講師や鳥羽市等と連携し、起業体験を軸にした産業・経済学習や地域課題解決学習に年間20時間以上実施 【成果指標】(生徒満足度調査結果等より) ①「生徒の進路実現に向けて効果的な指導を行なっている。」と回答した生徒の割合 95%以上 ②「産業社会と人間」等の授業を通じて、進路や社会参画への意欲向上に繋がったと考える生徒が 95%以上 ③「産社または光・創タイムなどを通して、自分の生き方が明確になってきた。」と回答した生徒の割合 70%以上	【活動指標】 ①夏季休業中に全教職員による面接指導を実施した。 ②外部講師や鳥羽市等と連携し、年間20時間以上達成した。 ②「産業社会と人間」で、IR説明会、とぼっ子市場の開催等、開催した。 ②3年次の「創タイム(総合的な探求の時間)」に鳥羽市長・市議会議員等に街の課題について解決策を提案した。 ③デュアルシステム3年次体験者19人、インターンシップ2年次体験者22人。 【成果指標】 ①「生徒の進路実現に向けて効果的な指導を行なっている。」と回答した生徒の割合 91% ②「産業社会と人間」等の授業を通じて、進路や社会参画への意欲向上に繋がったと考える生徒 97% ③「産社または光・創タイムなどを通して、自分の生き方が明確になってきた。」と回答した生徒の割合 1年次(産社) 76% 2年次(光タイム) 82% 3年次(創タイム) 92%	◎
改善課題			
○全教職員が生徒に寄り添い、授業規律の確保及び基礎学力の向上を目標に努める必要がある。 ○「産業社会と人間」(起業体験プログラム)、「鳥羽学」、「社会体験実習」等、地域や様々な事業所との協働による授業において、教員がその準備・調整等に関わる時間・負担が増加している。 ○学習意欲の低下やコミュニケーション不足などによる生徒への支援・対応が増加した。また、高校だけでは対応が困難な事例も増加している。			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1)計画的な研究授業を実施する。 (2)「信頼される学校であるための行動計画」の取組を実施する。 【活動指標】 ①研究授業を年2回実施 ②コンプライアンスミーティングの実施:年3回以上 【成果指標】 ①生徒の授業満足度80%以上	【活動指標】 ①研究授業の実施 2回 ②コンプライアンスミーティングの実施 4回 【成果指標】 ①生徒の授業満足度 93%	※
チームワークの向上・意欲の推進	(1)分掌・学年間を超えた情報共有。 【活動指標】 ①オフサイトミーティングの実施 【成果指標】 ②職員満足度調査で教職員のコミュニケーションが図れていると回答する教職員の割合80%以上	【活動指標】 ①オフサイトミーティングの実施 7回 【成果指標】 ②県と本校のストレスチェックの結果より、本校の方が上司や同僚とコミュニケーションやサポートが図られていると回答した教職員の値はかなり高かった。	
情報提供による信頼の構築 (情報推進係)	(1)学校教育活動の情報発信と広報を拡充する。 【活動指標】 ① 学校公式インスタの更新:週1回以上 ② ホームページの更新:週1回以上 ③ 学校情報を中学生へ配布:年間3回以上 【成果指標】 ① インスタフォロワー数:700 以上 (令和5年3月31日現在 640)	【活動指標】 ①学校公式インスタの更新 83回 ②ホームページの更新 56回 ③鳥羽市の広報誌に学校情報を掲載 2回(8月・3月) ○鳥羽市内中学校の生徒・保護者・教員等に学校魅力を伝えるアンケートを実施した。(6月) ○鳥羽市内の中学生に学校紹介紙を配付した。(2月) 【成果指標】 ①インスタグラムフォロワー数 893 (令和7年3月10日現在)	※

保護者・地域住民等との連携	(1)地域行事等への参画を実施する。 【活動指標】 ① 地域イベントに参加 ② 地域の小中学校等との交流 【成果指標】 ① 交流の機会10回以上	【成果指標】 ○地域のイベントに参加 10 回以上 ○鳥羽市内の幼稚園・小学校・中学校等との交流 10 回以上	
働きやすい職場環境づくり 管理職	(1)業務の精選や改善を進める。 (2)総勤務時間の縮減に向け、年次有給休暇を取得しやすい環境を作る。 【活動指標】 ①定時退校日に退校できた教職員の割合 80%以上 ②予定通り休養日を実施できた部活動の割合95%以上 ③放課後に開催した60分以内に終了した会議の割合 90%以上 【成果指標】 ①時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人 ②時間外在校等時間が月45時間を超える教職員数の延べ人数0人 ③1人当たりの月平均時間外在校等時間 30 時間以下 ④1人当たりの年間休暇取得日数 10 日以上	【活動指標】 ①定時退校率 79% ②休養日を実施できた部活動の割合 100% ③60 分以内に終了した会議の割合 96% 【成果指標】 ①年360時間を超える時間外労働者数 2 人 ②月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 12人 ③月平均時間外在校等時間 16 時間 ④1人当たりの年間休暇取得日数 24 日	※
改善課題			
○学校紹介や学校PR等のより効果的な情報発信の方法について、検討が必要である。 ○部活動指導・大会等への引率等、特定の教員に業務が集中している。 ○教員人数が年々減少する中で、分掌・担任業務、部活動、学校行事等の精選を進める必要がある。			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○最近の生徒は、喧嘩が一生の別れになることもある。また、身近な友達から悪く思われたくない生徒やSNSによるトラブルを繰り返し何度も指導を受ける生徒もいる。現状の課題から目を背けることなく、生徒自身で解決する力を付けて欲しい。 ○年々、地域での活動やイベントへの参加が増える中、教員はストレスに感じていないのか。時間的に余裕が無く普段からピリピリした教員の姿は、生徒にとって耐えがたい。また、いじめの発見や不登校生徒の対応、進路相談なども十分対応できなくなる。教員の環境を整えることで、生徒も良い方向に進む。今後、さらなる教員数の減少は、教員の時間外労働やストレスが増えないか心配である。 ○鳥羽市内の出生率の減少により、15年後には鳥羽市内の中学生の人数は現在の半分になる。
---------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○自ら課題解決力を育むため、探求活動の内容を見直し、特にコミュニケーション能力、創造力、自己肯定力の醸成を図る。 ○基礎・基本の学習の定着と一人ひとりの主体的な学習の充実を図るため、基礎診断ツールを見直す。 ○自他の理解や良好な人間関係を形成するため、就業体験学習や人権LHRの充実を図る。
学校運営についての改善策	○令和8・9年度の教員数や教育課程を見据え、教職員のワークライフバランスの充実が実感できるよう、分掌・担任業務、部活動、学校行事等の精選に努める。